

スペイン **バルセロナ大と交流締結**
Universitat de Barcelona
協定校13カ国19大学に



▲バルセロナ大学の重厚なキャンパス

専修大学は、スペインのバルセロナ大学との間に国際交流協定を結んだ。スペイン語圏との協定は01年のイペロアメリカナ大学(メキシコ)に次いで2校目で、欧州およびスペイン語圏における教育・研究のさらなる充実が期待出来る。これで本学との協定校は13カ国19大学となった。



▲歴代学長の肖像画が飾られた構内を見学

協定は、バルセロナ大学のジョアン・トゥゴレス・イクエス(Joan Tugores i Ques)学長と本学の出牛正芳学長がそれぞれ現地で署名した協定書を取り交わすことにより、3月18日付で締結された。4月下旬には出牛学長、大林守国際交流センター長らがバルセロナ大学を表敬訪問、今後の具体的な交流内容を話し合った。

相互で幅広い活動

内容は▽教員および学生の交換▽学術文献ならびに情報の交換▽その他の両大学間における研究・教育活動の促進▽学術会議、セミナーへの参加▽共同研究活動など。

今後の予定は、まず本学が、来年の春期留学プログラム(スペイン語コース)に、これまで実施していたサラマンカ大学に代わって20人を派遣する。さらに、長期交換留学生を相互に受け入れ、本学学生はバルセロナ大学で外国人用に開発された「Diploma of Hispanic Studies」コースを受講することが出来、スペイン語、スペイン研究科目(文化、歴史、経済等)についての学習が可能。バルセロナ大学生は、本学で特別聴講生として学部・大学院の授業を聴講できる。また国際交流センターで実施している「日本語・日本事情プログラム」および「日本理解プログラム」を受講することも可能になる。

カタルーニャ地方で550年の歴史

バルセロナ大学は、1450年に創立という歴史を誇るカタルーニャ地方を代表する総合国立大学。

学生約6万6000人(大学院生約9400人、留学生約1700人含む)、教員約4300人を擁し、学部構成は芸術学部、言語学部、哲学部、地理・歴史学部、経済・経営学部、法学部、生物学部、地質学部、化学部、物理学部、数学部、薬学部、医学部、歯学部、心

理学部、情報・図書館学部、教員養成学部、教育学部の18学部。



▲出牛学長、大林センター長と懇談するトゥゴレス学長

トゥゴレス学長の話

専修大学生と教員の皆さんには、1992年のオリンピック開催以来、大きく発展してきたここバルセロナにぜひ来ていただき、勉強・研究に励んでいただきたいと思います。本学学生・教員も日本に送り出します。今後の交流に期待します。

出牛学長の話

本学学生と教員が創立550年の歴史と伝統を持つバルセロナ大学で、勉学・研究の機会を得られたことに、深く感謝いたします。相互に交流を深め、両校がさらに発展することを祈念します。

【ニュース専修5月号1面】

4組に優秀賞 シンボルマーク・ペットマーク募集



▲左から小橋川さん、阿部さん、小坂彩さん(代理)

一大賞該当作品はなし—
シンボルマーク・ペットマーク募
集には合わせて118件の応募が
ありました。教職員・学生代

表20人から成る選考委員会で厳正な選考を行った結果、残念ながら対象該当作品は
ありませんでしたが、次の4組が優秀賞に選ばれました。

《シンボルマークの部》

小坂 仁士さん(育友)
青柳 千恵美さん(商3)

《ペットマークの部》

阿部 翔子さん(法3)
小橋川真由美さん・垣根愛さん(以上職員)

5月7日、神田キャンパスで表彰式が行われ、記念品と副賞の旅行券(5万円相当)が
出牛正芳選考委員長から渡されました。(青柳さん、垣根さんは都合により欠席)

委員会では、今後も本学の「顔」となるシンボルマーク・ペットマーク制定に向けて、協
議を続けてまいります。

※応募者の皆様には、参加賞を5月下旬に発送いたします。ご応募ありがとうございました。

【ニュース専修5月号1面】

キャンパス探訪<15>・アートの旅

『早春』『ぶどうの郷』



▲『早春』



▲『ぶどうの郷』

確かな線、大地と人の営為が描かれた風景画2点。共に生田キャンパス8号館1階に。

斎藤徳次(大調和会委員)『早春』は、3月下旬から4月初旬の風景か。個人的には、山形県・山寺(立石寺=芭蕉の「静けさや…」の句で有名)根本中堂(こんぼんちゅうどう)辺りからの川沿いの自然、宮城県・蔵王の遠刈田(とおがった)温泉から見た雪解け、などを連想した。山肌の杉や檜にかかる“荷”が解け雪解け水が川を走り、春は見えてきた。

長島稔(大調和会委員)『ぶどうの郷』は描かれた民家から、山梨県辺りが思い浮かぶ。大地の茶の色、遠景の山なみ。日本では棚に這(は)わせた「観光ぶどう狩り」。西欧、米国の栽培地を見た方はお分かりだが、杭に蔓を立たせる。ワイン用の品種だろう。作品左下のぶどう畑はその手。2作とも自然の息吹を捉える。

【ニュース専修5月号1面】